

# 景観体験・思いの意味を醸し出す デザイン・ランゲージに関する研究

中内 和<sup>1</sup>・川崎 雅史<sup>2</sup>

<sup>1</sup>正会員 修士（工学）株式会社 三菱総合研究所（〒100-8141 東京都千代田区永田町2-10-3）

E-mail:nanakauc@mri.co.jp

<sup>2</sup>正会員 博士（工学）京都大学大学院 工学研究科（〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂C1）

E-mail:kawasaki.masashi.7s@kyoto-u.ac.jp

現在各地で展開される行政主導の様々な景観形成計画は、住環境の水準向上や地域らしさの創出を目指した規制誘導型のフィジカルな指針である。それに加え今後の景観計画やまちづくりでは、異なる背景や経験を有する多様な主体の関与が不可欠である。そのための試みのひとつとして、東京・下北沢を対象として多様な主体による主観的な景観体験・思いの意味を現場体験より引き出し、それらの意味が発された場所の共通的なパターンを取り出した。

その結果、場所の着目点により分類された 44 のデザイン・ランゲージが創作され、それらを分類すると、個人が主観的な関係を築ける景観体験・思いの意味を発する場所の特性として、i) 非計画的な空間、ii) 人の営み・お付き合いの表象、iii) 身体感覚・五感に働きかける心地よさであることが明らかになった。

**Key Words** : design language, meanings of urban experience, townscape, Shimokitazawa District

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景・目的

現在各地で行政が展開している景観形成計画は、地域の重要な景観資源と景観区域を設定し、自然や街並みとの調和を目指す建築の形態や色彩に関わる規制誘導のフィジカルな指針である。それらはいずれも、“地域らしさ”の創出や住環境の生活水準の向上を目指しており、住民の生活景や意思を汲み上げて策定された計画もある。真鶴町のまちづくり<sup>1)</sup>では「真鶴町まちづくり条例—美の基準 (Design-Code)」を定めて、“真鶴らしさ”をまとめた規範により住民の「生活風景」を継承することを試みて一定の成果を挙げている。他にも、C.アレグサンダー「パタン・ランゲージ」<sup>2)</sup>は、設計プロセスの中でユーザーからヒアリングした空間イメージを文章化する作業を行い、設計言語体系としてのパタンのネットワークにより都市を捉えている。

他方、今後の都市の担い手や在り方を考えると、住民にくわえ新たな住まい手等の関係人口（地域や地域の人々と多様な関わりをもつ地域外の者）等の多様な主体の関与が不可欠であり、それら主体が景観や“まち”を維持していくまちづくりへの意思と積極的な関与が必要

である。そのための試みのひとつとして、これらの多様な経験や背景を持つ主体が、その場所に見出す主観的な意味を引き出して、景観の保全・形成の実践に結びつける方策が必要であると考えられる。

これらの背景をふまえて、本研究では、東京・下北沢を対象として多様な経験や背景を有する個人の景観体験・思いの意味が発された場所にみられる共通的なパターン（以下デザイン・ランゲージ）を抽出することを目的とする。また、それらのデザイン・ランゲージを通じて下北沢における空間の特性や価値を解釈し、デザイン・ランゲージを継承・維持することの意義を考察する。

### (2) 研究の方法

地域に関わる多様な主体の発話をもとにしたデザイン・ランゲージを、次のステップで創作した。詳細な内容は各章において記述する。

i) 下北沢への関わり方が異なる4主体（住民<sup>3)</sup>、商店街<sup>4)</sup>、下北沢大学（ゆかりがある人）<sup>5)</sup>、来街者<sup>6)</sup>）各3名計12名を対象に街歩きを行い、景観認識のデータ（選好する場所の写真撮影及びコメント）を収集した。街歩きの範囲は、下北沢にある4つの商店街を含む範囲とした（図-1）

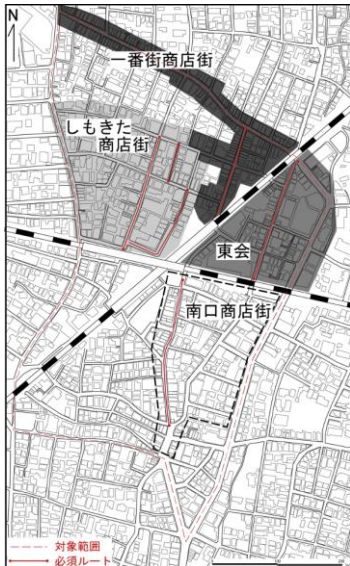


図-1 下北沢の地図と組織 (対象範囲)

- ii) 主体単位でワークショップ (以下WS) を行い、属性が近い者との対話を通じて、できる限り個人の嗜好を除いて景観体験・思いの意味を深めた。
- iii) i) ii) を通じて深められた発話をもとにして、個人の主観に基づく景観体験・思いの意味を抽出した。
- iv) 撮影写真や発話をもとに読み取った空間の図像等から、景観体験・思いの意味を醸し出すデザインのパターン (デザイン・ランゲージ) を抽出した。
- v) iv) でつくられたデザイン・ランゲージを通じて、下北沢の空間の価値や形成背景を解釈した。さらに、個人の主観にもとづくデザイン・ランゲージをつくり、継承する意義を明らかにした。

### (3) 研究の位置付け

関連する先行研究には、i) 景観認知・都市解釈の枠組みから空間特性に迫ったもの、ii) デザイン・ランゲージの開発、iii) 下北沢の空間特性に関するものがある。

i) 景観認知・都市解釈の枠組みから空間特性に迫った研究には、栗田ら<sup>3)</sup>が、棚田景観における景観がもたらす抽象的な印象から、景観の空間的な特徴の関係性を示しており、景観認知と空間的特徴を結び付ける研究の視点は参考になる。上田ら<sup>4)</sup>は、森林イメージを描画により類型化してアンケート結果を対応させることで、個人背景とイメージの関係を明らかにした。真田<sup>5)</sup>は、タウンウォッチングを元にしたエッセイやコラムから風景を評価している記述を抜き出し、それらの着目点から風景のパターンを17個に分類している。

ii) デザイン・ランゲージの開発を試みた研究には、飯田ら<sup>6)</sup>が、緑道やその境界の空間において「まちニハ」の概念の実現を試みており、抽象的な概念から空間デザインに落とし込む方法は参考になる。北澤ら<sup>7)</sup>は、農村景観の保全・形成に向けたデザインコードの読み取

りと意義を考察しており、本研究と非常に近い視点であり研究の背景や分析方法は参考になる。

iii) 下北沢の空間特性に迫ったものには、商業地としての都市構造 (店舗の立地状況<sup>8)</sup>) や角地建築の構え方<sup>9)</sup>等さまざまな観点や対象物に関する研究など数多くある。

これら既往研究をふまえ、本研究では多様な経験や背景を有する個人の主観的な景観体験・思いの意味が読取られる場の共通性を読取ったことに新規性がある。

### (4) 下北沢における景観体験・思いの意味の抽出

筆者らによる先行研究<sup>10)</sup>では、地域への関わりがことなる被験者12名による全288の景観認識のデータを、視対象を通じて捉えられた事象で分類した結果、17の景観体験・思いの意味が解釈された (表-1)。抽出された景観体験・思いの意味は、街並みと調和せず珍しい佇まいである「空間の非日常性」、誰でも気軽に参加できる「洗練されていないさま」、人々が交流を楽しむ「公的社交・私的交歓」、私がいる空間や私と視対象の間に一定の広がりを感じる「空間の広がり」、特定の領域に入り込んだ奥性を感じる「奥への誘い」、手入れ等から安心感や安全性を感じる「安全な棲息空間」、季節の移ろいや自然を感じる「自然の気配」、時間の流れや変化を感じる「時の気配・新陳代謝」、自身の生活等を連想する「親和的な空間」、他者の活動を連想する「活動の営みの痕跡」、私と他者が共有した活動を連想する「共同的な活動」、その拠点となる「共同体の拠点」、公共的なコミュニティに働きかける「まちの縁側」、他者への配慮を感じる「自然発生的な規範意識」、主体的な意思や個性を感じる「主体的な意思」、自由に参加できる「私の自由な選択」、連想される他者の活動の背景にある承認・協調関係を感じる「当事者性の承認」である。

さらに、解釈された17の景観体験・思いの意味を分類して景観認識の構造を抽出すると、視対象そのものに捉える印象評価である「印象評価型」、私がいる空間や気配を知覚認識する「知覚認識型」、視対象を通じて人の活動を連想する「意味付与型」、視対象により連想された活動の背景にある意識や作法等のメタなレベルの意味を読取る「メタ意味型」が得られた (図-2)。

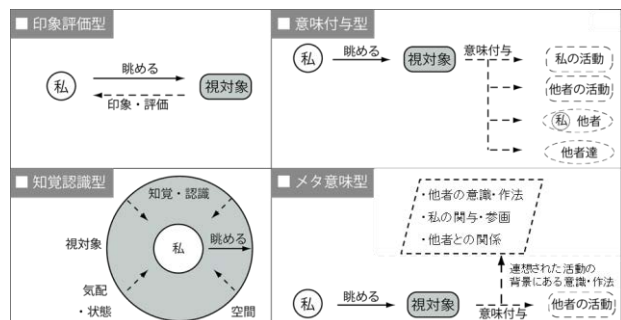


図-2 景観認識の構造 (4類型, 17の意味)

表-1 景観体験・思いの意味の定義と発言例

景観体験・思いの意味		上段：景観体験・思いの意味の定義，下段：発言例（カッコ内は発言者）
<b>a) 印象評価型</b>		
空間の非日常性		日常生活からかけ離れ、街並みと調和せず珍しく感じられる佇まい 「夜5時頃から開けたこ焼き屋さん。昼間通ると何屋かわからない佇まいだが、夜は行列がでている。知る人ぞ知る店。」(下北沢大学)
洗練されていなさま		安っぽさ・ダサさを感じられ万人が気軽に選択・参加できる佇まい 「駐車場の落書きは、ちゃんとしたアートではない。若いアーティストがやっているのではなく、モノ好きがやっている感じが下北っぽい。」(来街者)
公的社交・私的交歓		人々が交流などを楽しみ、さんざめきを感じる佇まい 「店先にテーブルとイスを出しているところが良く、飲んでいる人が楽しそうで自分も参加したい。あそこにいたら楽しいだろうな。」(来街者)
<b>b) 知覚認識型</b>		
空間の広がり		きっかけを通して空間や、視対象との間に広がりを感じる佇まい 「路地の静かさと緑、それぞれの家の環境づくりが見え、一歩入ると静か。」(住民)
奥への誘い		領域に入り込むような奥性を感じ期待感や好奇心を誘発する佇まい 「住宅地の路地は、色々なところに誘われる。迷い込む街。道の先に何かがありそうだと思う。新しい発見があるのではないかな。」(来街者)
安全な棲息空間		私が存在する空間において、安心感や安全性を感じる佇まい 「頑固親父と娘が経営していた店舗。無愛想さがよく、5人程度入ると満員になる店の狭さで、座っている人に立ってもらわないと通れない狭さが馴染みがあって落ち着く。」(住民)
自然の気配		私を超越する他者(季節の移ろい、自然など)が体感される佇まい 「桜の木は季節を感じられて好き。道を歩いて疲れて見上げた時に、コントラストを感じられる。今年初めてこの桜の下で、花見をしている人を見た。」(住民)
時の気配・新陳代謝		時間の流れや変化を予感・体感できる佇まい 「落書きが似合う。描かれては消され、また描かれてはシールを貼ってと修復されるが、その繰り返さる様子が油絵のように重ね合わさっている。」(下北沢大学)
<b>c) 意味付加型</b>		
親和的な空間		自身の生活に密接な関係を見出せる佇まい 「踏切をくぐる学生が懐かしく、かつて遅刻しないように踏切をくぐっていた自分が思い出される。」(商店街)
共同的な活動		私と他者が共有した活動や時間が想起される佇まい 「普段手入れしている花壇がベンチ代わりにされて残念。コーンを設置する、もしくは綺麗な花を植えると座る人がいなくなった。」(住民)
活動の営みの痕跡		他者の生業や活動を讀取れる佇まい 「街中にあるコインランドリー。自宅に洗濯機がない人、金銭的に余裕がない芸人・劇団員が利用していると連想できる庶民感がよい。」(下北沢大学)
共同体の拠点		地域の人々が拠り合う様子が讀み取れる佇まい 「今も好きなラーメン屋さん。週1回は通っていて、よく知り合いも食べている。皆も好きな店という印象。」(商店街)
まちの縁側		他者の活動が公共コミュニティに働き掛ける作法を連想する佇まい 「開放的にベンチを置いてみたり、街の雰囲気を読んで設えているのがおしゃれ。下北の観光に来ている若者をわかっている。」(下北沢大学)
<b>d) メタ意味型</b>		
自然発生的な規範意識		他者の活動の背景に、社会的ルールや他者への配慮を感じる佇まい 「しもきたの雑多さにマッチした放置自転車。やりすぎてなく、自転車置き場が厳密に整備されている訳ではないが、節度を持って置いている感じが良い。」(来街者)
主体的な意思		他者の活動を通じて、主体的意思・個性が感じられる佇まい 「これぞ下北。公共空間の使い方が独特。看板が規制に捉われず、溢れ出しているのが良い。狙った感じ・計画された感じはなく、結果的にうまくいく感じがよい。」(来街者)
私の自由な選択		風景に私を委ねる際に個人の裁量で自由に選択・参加できる佇まい 「個人経営の店はおしゃれで入りづらく、チェーン店があると逆に落ち着く。馴染みがあり、あれ食べてあれ飲んでほっとしようという感じ。店のやり取りがわかる。」(下北沢大学)
当事者性の承認		他者の活動の背景にある、他者との承認協調関係を感じる佇まい 「昔からある壁に掛けてある古着のディスプレイは、大家さんから許可を取ってやっている。個人的なディスプレイも、画一化しない風景として大切にしてほしい。」(商店街)

## 2. 対象地概要

### (1) 商店街の経緯・概要

下北沢は東京・世田谷区に位置し、駅を中心に様相が異なる4商店街（しもきた商店街、一番街、南口商店街、東会）で構成される。昭和初期に鉄道駅が建設され、元々の農地が個別に宅地・商業地と更新されてきたため、現在でも商業地と住宅地が連続する空間になっている<sup>1)</sup>。

### (2) 都市空間の変容を巡る計画の整理

対象地の都市再開発事業には、都市計画道路や地区計画、小田急線地下化がありヒューマンスケールな空間が失われると懸念される。小田急線地下化後の空き地活用等では住民参加型（WS や区民意見の公募）で検討しているが、跡地利用が主な論点であり、街全体を対象としていない、ゾーニング検討に留まり商店街の空間整備までは議論されていない、地域主導の提案を十分に汲み取り、景観計画に反映されていない等の課題がみられた<sup>2)</sup>。

## 3. デザイン・ランゲージの創作

### (1) 概要・分析方法

被験者の主観にもとづく景観体験・思いの意味を發された場所について、その発話内容や撮影された写真の画像等を読み取り、場の設えについて共通性を有するパターンが認められるように抽象化したものを「デザイン・ランゲージ」として位置付けた。デザイン・ランゲージは具体性に乏しいため、設計計画者の分かりやすい指針となるよう前提条件、演出方法、街の人による解説およびデザイン・ランゲージにより醸し出される意味を一体的に表現して“しもきた・ランゲージ”と命名してまとめた。

#### i) デザイン・ランゲージ：

場の設えを表す共通的なデザイン・パターンである。

#### ii) 景観体験・思いの意味：

被験者がその場（デザイン・ランゲージ）に付加・見出す意味である。

#### iii) 前提条件：

下北沢に存在するデザイン・ランゲージの現状の説明およびそれが持つ価値（被験者の発話により解釈）。

#### iv) 演出方法：

デザイン・ランゲージを具体的に街のなかに演出するための方法や特徴をまとめる。

#### v) 街の人による解説：

街歩きおよびWSにおける被験者の発言にみられる、デザイン・ランゲージの具体的な場所の様子やその価値を例示する。

表-2 意味とデザイン・ランゲージの体系（○表記）

<b>* 空間の非日常性</b>	
○街角に残る宗教性	○特異な空間構成
○おどろおどろしい場所	○サブカルチャーの名残
○いつも通る道・通学路	○街の風景をつくる人
<b>* 洗練されていないさま</b>	
○商店街にある生活施設	○街の風景をつくる人
○店主の生活・遊び心	○躍動する仮設的要素
○有機的な壁	
<b>* 公的社交・私的交歓</b>	
○賑わう店先	○躍動する仮設的要素
○小さな人だまり	○住民活動の息吹
○雑多な人の混在	
<b>* 空間の広がり</b>	
○街を眺められる隠れ家	○切磋琢磨する街路
○商店街の背後にある静粛	○垣間見える空
○遠景	
<b>* 奥への誘い</b>	
○見通せない路地	○ひしめき合う建物
○通り抜ける風	○地形が残る街路
○隙間から見る実のなる木	
<b>* 安全な棲息空間</b>	
○数人入ると狭くなる店内	○手入れ
○歩行者中心の道	○見慣れたスケール感
○ひしめき合う建物	○視界を遮る障害物
<b>* 自然の気配</b>	
○商店街にある桜	○取り込まれた緑
<b>* 時の気配・新陳代謝</b>	
○見守られた空間	○昭和の建物
○塗り重なる落書き	○ひしめき合う建物
○流行を求めない経営	
<b>* 親和的な空間</b>	
○街中の遊び場	○街の風景をつくる人
○商店街にある生活施設	○通学路・いつも通る道
○記憶を想起させる地形	○見慣れたスケール感
<b>* 共同的な活動</b>	
○小さな人だまり	○街中の遊び場
○住民活動の息吹	
<b>* 活動の営みの痕跡</b>	
○設えられた緑	○ひしめき合う建物
○商店街にある生活施設	○取り込まれた緑
○見慣れたスケール感	○住民活動の息吹
○昭和の建物	
<b>* 共同体の拠点</b>	
○流行を求めない経営	○見守られた空間
○街中の遊び場	○懐かしい匂い
○商店街にある生活施設	
<b>* まちの縁側</b>	
○店先のベンチ	○店主の生活・遊び心
<b>* 自然発生的な規範意識</b>	
○節度ある設え	○賑わう店先
<b>* 主体的な意志</b>	
○店主の生活・遊び心	○躍動する仮設的要素
<b>* 私の自由な選択</b>	
○住民活動の息吹	○流行を求めない経営
○ひとりになれる場所	○商店街の背後にある静粛
<b>* 当事者性の承認</b>	
○調和した色彩	○壁に掛けられた古着
○住民と店主のお付き合い	○躍動する仮設的要素

(2) しもきた・ランゲージの創作方法

街歩きおよび WS により得られた被験者 12 名による発話について、それぞれの発話における「場の着目点」により分類した。場の着目点とは、被験者によりその場所の状態や設えとして説明されるものことである。

具体例として、しもきた・ランゲージ「商店街の背後にある静粛」の創作方法を示す。「路地の静かさと緑、それぞれの家の環境づくりが見え、一步入ると静か」(住民)、「境内にブランコがあり向かいの屋根まで靴を飛ばした。商店街の賑やかさと静かさの対比が良い」(商店街)、「街のごちゃごちゃしている場所を離れれば静かで住みやすい。寝るとき静かだから対比が良い」(下北沢大学)という発言では、いずれも場所の状態として「静けさ」に着目している。また、「一步入ると」「商店街の賑やかさ」「街のごちゃごちゃしている場所を離れれば」とあるように、商店街の賑やかさや雑多さとの対照性も着目している。これらの「静かさ」「商店街の賑やかさとの対比」を組み合わせて「商店街の背後にある静粛」がつくられる。前提条件や演出方法は、これらの被験者が指摘する価値や設計指針を包括した。

(3) しもきた・ランゲージの提案

前節で示した創作方法にしたがって被験者 12 名による全 288 の景観認識に関するデータをそれぞれの場の着目点により分類すると 44 のしもきた・ランゲージが創作できた(表-2)。紙面の都合上全てのランゲージを説明できないため、各意味から 1 つのしもきた・ランゲージを説明する。

創作されたしもきた・ランゲージは(図-3)、交差点の角にある神社等の「街角に残る宗教性」、若者向けのコンテンツが揃う商店街に混在するコインランドリー等の「商店街にある生活施設」、楽し気に飲む人がいる店

先のテラス等の「賑わう店先」、低層の建物を見渡せる屋上等の「街を眺められる隠れ家」、道の先に何かありそうな住宅地の路地等の「見通せない路地」、座っている人が立たないと通れない中華料理店等の「数人入ると狭くなる店内」、疲れた時に見上げると癒される桜等の「商店街にある桜」、沿道の商店や住民は変わっても続くコミュニケーションや見上げた空の感じ等の「見守られた空間」、車通りが少なく仲間達と昔スケートボードをした坂道等の「街中の遊び場」、町内会の会議後によく立ち寄る喫茶店等の「小さなだまり」、緑の連続性を演出する道に設えられたプランター等の「設えられた緑」、前の世代から続く新しさを求めず、地元の人で賑わう老舗のパン屋等の「流行を求めない経営(地域に根付く)」、即席でつくられたビールケースの席等の「店先のベンチ」、人の通行を妨げないように一列に並んで置かれる自転車等の「節度ある設え」、この店で生計を立てている様子や店主の趣向が垣間見える店頭ディスプレイ等の「店主の生活・遊び心」、住民が盛り上げようとやっているイベントポスター等の「住民活動の息吹」、大家から許可を取ってコンクリート壁に掛けられる商品等の「壁に掛けられた古着」等である。

(5) しもきた・ランゲージにみる下北沢の空間特性

前節でつくられた 44 のデザイン・ランゲージを分類して、下北沢における景観体験・思いの意味を發される(個人が主観的な関係を築ける)場の特性を考察すると、下北沢の空間が持つ次の特性が明らかになった(表-3)

a) 非計画的な空間

取り出された空間特性には「住宅地と商店街の近接」「細街路網」「低層な建物群・小さな敷地」「都市の隙間・デッドスペース」「偶発的に発見される拠点」「公共空間の私的利用」「先代への対話」がある。これらは

○商店街の背後にある静粛	
意味	*空間の広がり, *私の自由な選択
前提条件	下北沢の居心地の良さを感じさせてくれる場所に、商店街の賑わいの背後にある静粛な場所がある。商店街の賑わいや雑多さに疲れた時に、隣り合わせる静粛は、とても静かに人を迎えてくれる。
演出方法	賑わいを感じる場所や通りの背後には、喧噪から逃れられる「静粛」がある場所を用意する。静粛な場所は、騒音から壁や建物で守られるよう自然を保護する。
<p>■賑やかさから離れられる広場      ■商店街から一步入った住宅地・路地      ■街の奥にひっそりと佇む境内</p>	
街の人による解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路地の静かさと緑、それぞれの家の環境づくりが見え、一步入ると静か(住民)</li> <li>・境内にブランコがあり向かいの屋根まで靴を飛ばした。商店街の賑やかさと静かさの対比が良い(商店街)</li> <li>・街のごちゃごちゃしている場所を離れれば静かで住みやすい。寝るとき静かだから対比が良い(下北沢大学)</li> </ul>

図-3 しもきた・ランゲージの一例(商店街の背後にある静粛)

表-3 デザイン・ランゲージを通じた下北沢の空間の解釈 (意味—しもきた・ランゲージ—指摘された場所の例の順に構造化)

■非計画的・合理的な空間	■人の営み・お付き合いの表象
<p><b>◆住宅地と商業空間の近接</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*洗練されていないさま                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○商店街にある生活施設</li> </ul> </li> <li>*親和的な空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅に洗濯機がない人が使うコインランドリー</li> <li>・扱う種類が豊富でよく買っていく花屋</li> <li>・小学生の頃よく買いに来たおもちや屋</li> <li>・知り合いにもよく会った一番街の魚屋や肉屋</li> <li>・このあたり人は必ず利用していた銭湯</li> <li>・地元の人によく会うジム</li> <li>・よく知り合いにも会う道1で違うラーメン屋</li> </ul> </li> <li>*活動の営みの痕跡</li> <li>*共同体の拠点</li> <li>*空間の広がり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○商店街の背後にある静粛</li> </ul> </li> <li>*私の自由な選択                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○ひとりになれる場所</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>◆人の営みの表象</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*空間の非日常性                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○街の風景をつくる人</li> </ul> </li> <li>*親和的な空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活臭があふれるおしゃれさん</li> <li>・かつての自分と重なる踏切をぐる学生</li> <li>・役者を出待ちするおばさん</li> <li>・有名な人に出(わす)連り</li> </ul> </li> <li>*洗練されていないさま</li> <li>*まちの緑割                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○店主の生活・遊び心</li> </ul> </li> <li>*主体的な意思                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・この店で生計を立て生活や趣向が見える店舗</li> <li>・支払ったお金が店主の懐に入るのわかる店舗</li> <li>・ごちゃごちゃしたディスプレイ</li> <li>・オリジナルな外観</li> <li>・店主の遊び心がわかる店先の手作りライター</li> <li>・マスターが頑張っている様子が伝わる喫茶店</li> <li>・手作りの均質化されないものがある雑貨屋</li> <li>・見てくれも拘った人たちがごぞつて販売する店</li> <li>・嘘の看板をかけるおばさんの遊び心</li> <li>・振る舞いが面白く印象的な店主のおばさん</li> </ul> </li> <li>*公的社交/私的交歓                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○住民活動の息吹</li> </ul> </li> <li>*活動の営みの痕跡                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が盛り上げようとするイベントのポスター</li> <li>▲普段手入れ入れている花壇</li> </ul> </li> <li>*共同的な活動</li> <li>*私の自由な選択</li> <li>*時の気配                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○塗り重なる落書き</li> </ul> </li> <li>*安全な休息空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○手入れ</li> </ul> </li> <li>*空間の非日常性                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○いつも通る道・通学路</li> </ul> </li> <li>*親和的な空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・描かれては消される落書き</li> <li>・落書きだらけのホームの欄</li> <li>▲雑草だらけで手入れされていない空き家</li> <li>▲再開発により露わになった建物の側面</li> <li>▲ゴミ置き場になっているビルの合間</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>◆細街路網 (畑地帯からの有機的な開発)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*空間の広がり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○切磋琢磨する街路</li> </ul> </li> <li>*奥への誘い                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○見通せぬ路地</li> <li>○地形が残る街路</li> </ul> </li> <li>*安全な休息空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行者中心の道</li> </ul> </li> <li>*空間の非日常性                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○特異な空間構成</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>◆お付き合いの表象</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*時の気配                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○見守られた空間</li> </ul> </li> <li>*共同体の拠点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○節度ある設え</li> </ul> </li> <li>*自然発生的な規範意識                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○壁に掛けられた古着</li> <li>○住民と店主のお付き合い</li> </ul> </li> <li>*当事者性の承認                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○調和した色彩</li> <li>○住民と店主のお付き合い</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>◆低層な建物群・小さな敷地割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*空間の広がり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○街を眺められる隠れ家</li> </ul> </li> <li>*安全な休息空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○ひしめき合う建物 (持続する空間密度)</li> </ul> </li> <li>*時の気配</li> <li>*活動の営みの痕跡</li> <li>*安全な休息空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○数人で狭くなる店内</li> </ul> </li> <li>*親和的な空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○見慣れたスケール感</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>◆身体感覚・五感に働きかける心地よさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*空間の広がり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○遠景</li> <li>○垣間見える空</li> </ul> </li> <li>*奥への誘い                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○通り抜ける風</li> </ul> </li> <li>*親和的な空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○商店街にある桜</li> </ul> </li> <li>*自然の気配                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○取り込まれた緑</li> </ul> </li> <li>*活動の営みの痕跡                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○賑やかな声</li> </ul> </li> <li>*共同体の拠点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○懐かしい匂い</li> </ul> </li> <li>*活動の営みの痕跡                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○設えられた緑</li> </ul> </li> <li>*親和的な空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○記憶を想起させる地形</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>◆都市の隙間・テラススペース</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*洗練されていないさま                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○有機的な壁</li> </ul> </li> <li>*奥への誘い                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○隙間から見る奥のなる木</li> </ul> </li> <li>*空間の非日常性                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○おどろおどろしい場所</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>◆その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*空間の非日常性                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○サブカルチャーの名残</li> <li>○街角に残る宗教性</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>◆偶発的に発見される拠点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*公的社交/私的交歓                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○雑多な人の混在</li> </ul> </li> <li>*共同的な活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○小さな人だまり</li> </ul> </li> <li>*親和的な空間                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○街中の遊び場</li> </ul> </li> <li>*共同体の拠点</li> </ul>	<p><b>◆先代への対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*時の気配                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○昭和の建物</li> </ul> </li> <li>*共同体の拠点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○流行を求めない経営 (地域に根づく)</li> </ul> </li> <li>*私の自由な選択</li> </ul>
<p><b>◆公共空間の私的利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*洗練されていないさま                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○躍動する仮設的要素</li> </ul> </li> <li>*公的社交/私的交歓                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○店先のベンチ</li> </ul> </li> <li>*主体的な意思</li> <li>*まちの緑割                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○店先のベンチ</li> </ul> </li> <li>*公的社交/私的交歓                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○賑わう店先</li> </ul> </li> <li>*自然発生的な規範意識</li> </ul>	<p><b>◆先代への対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*時の気配                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○昭和の建物</li> </ul> </li> <li>*共同体の拠点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○流行を求めない経営 (地域に根づく)</li> </ul> </li> <li>*私の自由な選択</li> </ul>
<p><b>◆先代への対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*時の気配                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○昭和の建物</li> </ul> </li> <li>*共同体の拠点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○流行を求めない経営 (地域に根づく)</li> </ul> </li> <li>*私の自由な選択</li> </ul>	<p><b>◆先代への対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*時の気配                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○昭和の建物</li> </ul> </li> <li>*共同体の拠点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○流行を求めない経営 (地域に根づく)</li> </ul> </li> <li>*私の自由な選択</li> </ul>

らは経済的な合理性を求める近代の都市計画では生まれづらい空間であり、特定のデザイン主体も存在しない。

#### b) 人の営み・お付き合いの表象

次に、取り出された空間特性には「人の営みの表象」「お付き合いの表象」である。これらは下北沢を構成するあらゆる人々の活動やその関係性が前提となり現れる風景であり、地域の人の固有性のうえに成立している。

#### c) 身体感覚・五感に働きかける心地良さ

遠景や風、地形（勾配）といった五感や身体感覚に働きかける心地よい空間特性である。

#### d) その他

ほかには、地域で守られてきた宗教性や1980年代以降に「若者の街」という側面が街に加わったことによる後発的な空間特性がみられた。

### 4. まとめ

#### (1) しもきた・ランゲージの意義

本研究の成果から下北沢におけるデザイン・コード（しもきた・ランゲージ）の独自性を整理して、その意義を以下に考察した。

下北沢におけるデザイン・ランゲージの独自性は、i) 下北沢の発展経緯（日用品を地域に供給する商店街を骨格として発展、畑地帯から大規模開発がなく住宅地に転換した、敷地・建物更新において敷地単位の個別更新が行われてきた等）にもとづく、ii) 地域に関わる人の営みや個性、お付き合いの表象である、iii) 身体感覚に働きかける自然・地形等に分類されるため、いずれも地域の歴史や地域の人々の固有性により成り立っている。そのため、しもきた・ランゲージを保全・継承することは、地域の歴史や固有性（代替不可能性）を維持する事につながるのではないだろうか。

さらに、しもきた・ランゲージを通じた下北沢の空間特性をふまえると、個人が主観的な関係を築ける景観体験・思いを発する場所の特性として、都市のデッドスペース等の非計画的な空間であること、人々の活動やお付き合いによるものであること、特定のデザイン主体が存在しないことが示唆された。今後の都市の在り方を考える際には、スクラップ&ビルドとは異なる方向性として、今ある非効率的・無駄な残余空間等や人の活動や関係性の表象を保全・維持することが重要であると考えられる。

#### (2) 今後の展望

主観的な景観体験・思いが発される場の在り方を他の地域に展開するためには、どのように場が形成されたか、その背景を明らかにする必要がある。筆者の先行研究では、敷地境界部の仮設的要素や活用に注目して、それら

の設え方にみる“地域的ルール”の成立条件を明らかにしたが、その持続背景には多様な主体の関与や協働など複雑な要因があった<sup>13)</sup>。対象地の他の場の設えについても、成立・維持する要因や背景を解明する必要がある。

#### 補注.

- [1] 住民（町内会）の街歩きおよびWSは、2015年4月26日（日）に実施した。現在下北沢に住み、町内会に所属する60代女性2名、60代男性1名に参加いただいた。
- [2] 商店街の街歩きおよびWSは、2015年6月13日（土）に実施した。商店街役員（所属する商店街は全員同じではない）である40代男性3名に参加いただいた。
- [3] 下北沢大学の街歩きおよびWSは、2015年7月5日（日）に実施した。下北沢大学に数年前から所属する30代男性1名、30代女性2名に参加いただいた。3名とも学生時代より来街或いは居住経験がある。
- [4] 来街者の街歩きおよびWSは、2015年4月25日（土）に実施した。20代男性3名に参加いただいた。3名とも今までに下北沢にきたことはない。

#### 参考文献

- 1) 五十嵐敬喜, 野口和雄, 池上修一: いきづく町をつくる美の条例, 真鶴町・一万人の選択, 学芸出版社, 1996.4.
- 2) Alexander, C: パタン・ランゲージ, 鹿島出版会, 1984.12.
- 3) 栗田英治, 松森堅治, 山本徳司: 地域住民及び地域外住民による棚田景観の認知・評価構造, 農村計画学会誌 (no.27), pp.257-262, 2009
- 4) 上田裕文, 小野良平, 下村彰男: 森林のイメージ形成に与える個人背景と既存イメージの影響, ランドスケープ研究 (no.65), pp.685-688, 2002
- 5) 真田純子: エッセイにみる都市解釈の枠組みに関する研究, 都市計画論文集 (no.34), pp.391-396, 1999
- 6) 飯田哲徳, 中谷静乃, 前田敬, 高木雄基, 鶴野勝巳, 今井恵一, 中村良夫: 「まちニハ」実現化方策に関する研究, 国土文化研究所年次報告 (no.13), pp.56-65, 2015.6.
- 7) 伊藤雅春, 延藤安弘: 創造的合意形成ツールとしての「デザイン・ランゲージの開発」, 日本建築学会技術報告集 (no.12), pp.157-160, 2001.1
- 8) 委東勲: 地域型商業地における店舗の立地状況に関する研究—下北沢の事例—, 日本建築学会計画系論文集, 第73巻第625号, pp.619-624, 2008.
- 9) 佐々木啓, 塚本由晴, 吉村英孝, 藤村龍至, 能作文徳, Pyo Hong Seog, 金野千恵: 角地建築の構え—構えからみた下北沢における角地建築の類型 (1), 日本建築学会学術講演梗概集, pp.717-718, 2007.
- 10) 中内和, 山田圭二郎, 高橋利之, 川崎雅史: 下北沢における景観体験・思いの意味に関する研究—主体間の差異に着目して—, 土木計画学会研究論文集D3, Vol.74, (no.2), pp.152-164, 2018.
- 11) 日本大学史学研究室 佐々木隆爾調査団: 下北沢商店街の歴史・現状と課題, こうち書房, p.16, 2001.
- 12) 高橋ユリカ, 小林正美: シモキタらしさのDNA, 株式会社エクスマレッジ, p.116, 2015.6.
- 13) 中内和, 山田圭二郎, 川崎雅史: 下北沢の商業系街路空間をめぐる地域的ルールの形成に関する研究, 土木学会論文集D1 (no.71), pp.116-132, 2015.11.